

ITOSUGI

いとすぎの丘



卒業式



入学式

赤十字総合セミナー

Pick Up



1年生が赤十字総合セミナーで明治村の日本赤十字社中央病院病棟を訪れました。



タイ赤十字看護大学とのオンライン交流会

- 学長の言葉
- 大学行事
 - 学生表彰
 - 学部・大学院新入生の言葉
 - 卒業式・入学式
 - 赤十字総合セミナー
 - 国際交流
- 大学の活動
 - RCT☆LINK
 - 自治会活動
 - 公開講座
 - 入試結果
- Information

東日本大震災から10年

学長 鎌倉 やよい

2021年3月11日は、東日本大震災から10年となりました。2011年その日の午後、私は修士課程の学生とのゼミの最中でした。ゆっくりと繰り返される大きな揺れに、いつもの地震とは違うと直感し、テレビを見ると、津波が田畑、家屋を飲み込む衝撃的な映像が目に飛び込んできました。これは現実かと目を疑い、その映像を直視することができませんでした。災害は私たちの日常を一瞬のうちに奪います。福島原発事故は10年が経過しても、廃炉への道筋は立っていません。被災された一人ひとは、かけがえのない日常を否定なく奪われ、その後に新たな日常を築く努力を余儀なくされますが、それは容易なことではありません。

私たちは、新型コロナウイルスの爆発的な世界規模の感染拡大を経験しています。WHOによるパンデミック宣言後、1年が経過しましたが、感染拡大は繰り返され、4月25日、東京、京都、大阪、兵庫の四都府県に、3回目の緊急事態宣言が発令されました。愛知県の感染者数は300人を超え、右肩上がりに増加し、名古屋市はまん延防止等重点措置の対象となりました。パンデミックも災害であると考えます。私たちは、大学内で授業を受ける、臨地実習に参加する、クラブ活動を行うなど、当たり前の日常が制限され、新しい日常に適応する努力を迫られた1年でした。

災害が繰り返されていますが、多くの災害は地球温暖化が引き起こす異常気象によるものであり、警鐘が鳴らされています。カリフォルニア、オーストラリアの深刻な山火事は、森を失い二酸化炭素を発生し温暖化を加速すると共に、動物の生息地域をなくします。人間の都合で森や林が伐採されると、二酸化炭素の排出量は増加し、動物の生息域との距離が短くなります。先日、ロシアに巨大な穴が出現したことが報道されていました。温暖化によって永久凍土が溶けてガスが発生し地表に穴をあけたと推測されていました。野生動物固有のウイルス、永久凍土に封じ込められた未知のウイルスが現れる可能性など、環境への影響を地球規模で考える必要があります。



本学は人道の教育理念のもとに、「地球に寄り添う看護」を謳っています。地球上には、人間のみならず多くの生物が生きていますので、共存することが必要です。しかし、人間は便利さを求め、快適な生活を求め、経済は発展してきました。プラスチックバックやストローなど、捨てられたプラスチックのごみは分解されることなく、小さなマイクロプラスチックとなって海を漂い、さらに上空の大気中をも漂い、生物の生態系への影響が危惧されています。海の汚染は、魚を介した食物連鎖として人へ戻ってくるかもしれません。

今、私たちは、将来の子どもたちに美しい地球を残すために、持続可能社会を目指すことが必要であり、今できることを行う努力が必要です。国際連合は2015年に持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）を採択しました。SDGsには17の目標がありますが、本学は建学の精神に基づき、「目標3：すべての人に健康と福祉を」、「目標10：人や国の不平等をなくそう」、「目標16：平和と公正をすべての人に」を目標に掲げました。今回、豊田市の新型コロナワクチン接種に全面協力いたします。これは目標3の達成につながります。また、これら3つの目標のほか、プラスチックごみを減らすことは「14：海の豊かさを守ろう」につながります。組織としての目標のみならず、一人ひとりがSDGs17の目標達成に向かってできることから始めることが重要です。

学生表彰

毎年、成績優秀な学生を表彰しています。

令和2年度受賞者一覧（※令和2年度での学年です）

□学業において大変優れた成績をおさめた学生

1年生 本嶋 真依
2年生 木下 萌花
3年生 末廣 崇人
4年生 前田 万綾

□最優秀卒業論文に選ばれた学生

4年生 金丸明日香
田中 裕子
三浦 亜友

□私立看護系大学協会会長表彰

4年生 前田 万綾



学部新入生

看護師になるために

学部新入生 舟橋 果保

私が看護師を目指したきっかけは、ある看護師の方との出会いでした。幼い頃喘息のような症状が出た際、病院で採血をすることになった私は不安でいっぱいでした。ですが、その時担当してくださった看護師の方が優しく笑顔で声をかけて下さり、自然と不安な気持ちが消えていきました。その方との出会いで、私も患者さんの不安を取り除くことの出来る看護師になりたいという夢を志すようになりました。

今までは遠い未来だと思っていた看護師という夢も本学に入学し、一步大きく近づき、今は期待と不安で胸がいっぱいです。本学では看護の基礎知識はもちろんのこと、他の大学では学ぶことの出来ない国内外での災害救護や赤十字の活動、赤十字の理念である「人道」についての知識を4年間でしっかり身につけたいと考えています。そのためにこれから関わっていく沢山の人の出会いや関わりを大切にし、患者さんの身体だけでなく、心までケアすることの出来る看護師を目指します。

大学院新入生

看護研究者としての第一歩を踏み出すために

大学院新入生 山中 大輔

我が国は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、育児や介護との両立など働く人々のニーズの多様化に伴い、2019年度から働き方改革を謳い文句に各種政策が整備されてきました。看護師も例外ではなく、日本看護協会によって看護師のワーク・ライフ・バランスが推進されています。このような多様化する社会の中で、看護師免許をもつ人々が様々な形で生涯を通じて看護の世界と関われるような環境にならないかなと常々考えていました。2020年新型コロナウイルスの未曾有の感染拡大に伴い、TVをつけると看護師というワードを目にしない日はありません。看護師の働き方について多方面から注目が集まっている今、私個人としても大きな変革を起こすべきタイミングではないかと思いました。

クリミア戦争後、病床にいらながらも統計学を生かして看護研究に励み、世界の医療を変えたナイチンゲールのように、私も本学で自己研鑽を重ね、看護研究者としての第一歩を踏み出していこうと思います。大学院生として仕事と勉強の両立などの不安はありますが、看護師の人材確保、人材配置に関わる研究を成し遂げられるよう、3年間全集中で駆け抜けていきたいと思っています。

卒業式



入学式



赤十字総合セミナー

赤十字総合セミナーは、学部1年生後期の科目であり、赤十字の歴史に触れ、赤十字の人道の精神に基づいた看護の理解を深め、求められる看護の専門性について考察することを目的としています。

今年度は、本学の常設展示室や赤十字資料室を見学したり、犬山市・博物館明治村にある日本赤十字社中央病院病棟を訪れ学芸員さんの説明を受けました。学生たちは、明治23年に建設されたこの病院を見学する中で、建築様式や病室に置かれている物品など現代の病院との違いを感じていました。その一方で、当時から「換気」を重視した設計であったことを知り、100年以上も前から療養環境の改善に目が向けられていたことに驚きつつ、それがいかに大切かということを現在の新型コロナウイルス感染症状況を踏まえながら歴史を持って学ぶことができました。

また、その他の授業内容では、グループに分かれ赤十字に関する関心あるテーマを選択し、文献や資料などを活用しながら探求しました。そのまとめとして、各グループが発表を行いました。発表の中には、これ



まで本科目で学習した赤十字の歴史についてさらに探求したものや、これまでの他の科目で触れた赤十字の災害救護についてさらに探求したものが多く、学生同士の活発な質疑応答や意見交換が見られました。

これらの学習を通じ、学生たちは赤十字の歴史について理解し、求められる看護やその専門性について学びを深めることができました。

国際交流

タイ赤十字看護大学とのオンライン交流

国際交流委員会

本学は国際交流活動の一環としてタイ赤十字看護大学（STIN: Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing）とMOU（了解覚書）を交わしており、2017年よりSTINの学生を本学に受け入れ、交流しております。

2020年度は本学からも学生を派遣する計画をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を

受け対面での交流が出来ず、初めての試みとしてオンラインによる交流を実施しました。

本学からは4年生3名、1年生8名が参加し、STINからも約20名と多くの学生が参加して英語で交流を行いました。本学の学生は事前に準備したパワーポイントを使って日本の新型コロナウイルスの感染状況や感染対策を話し、STINからはタイの新型コロナウイルス感染症拡大下での学生生活などを話していただきました。

STINの学生からは「自粛期間の学習や過ごし方はどうしているのか」、「オンライン授業はどのように行っているか」などの質問も多くあり、会話の中で垣間見える互いの文化や習慣の違いに時折驚きや笑いも起きつつ、大変有意義な交流となりました。

異文化を理解し広い視野を持つ看護師を育成するため、今後もこのようなオンラインでの交流も含め頻繁に国際交流の機会を持ちたいと思っています。



RCT☆LINK

3年 森島 美瑛

私はThe Serendipityと生協学生委員会に所属しています。どちらも今年度はZOOMでの活動になりました。The Serendipityでは、今年は実際にカンボジアに行って交流ができませんでした。そのため、現地とZOOMを用いて遠隔で感染予防の授業や日本文化と一緒に体験できるようにするため、カンボジアに送るWi-Fi代や輸送費などの募金活動を実施しました。募金活動にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。今年度はカンボジアについてより詳しく学ぶ良い機会だと考え、公用語であるクメール語についてサークル内で学んでいます。来年こそはカンボジアに渡航できることを願っています。

また、私は生協学生委員会の副委員長を務めています。大学に行く機会が減少して、学生委員としてこれからどんな活動ができるのかを委員会を通じて話し合っています。今年度は、新入生サポートブックの作成と新入生説明会を実施することができました。現在は

来年度の新入生オリエンテーションに向けて準備を進めています。コロナ禍で直接、顔を合わせて話し合える時間が減り、学生委員が減少しているのも一つの課題です。もし、ご興味があれば、ぜひ生協学生委員に声をかけてください。

2020年は友達と会う機会が減少し、とても寂しい一年でした。講義形態も大きく変わり、主にオンラインを使用しての受講となり、遠隔授業でのグループワークの難しさを実感しています。まだまだ感染対策には気が抜けませんが、友達と一緒に空間で勉強できる日常に戻ることを願うばかりです。



自治会活動

コロナ禍での自治会活動について

2年 二村 圭祐

この一年間自治会では、新型コロナウイルス感染症の影響により企画の中止・変更などさまざまな制約を受けながら活動を行ってきました。上半期の自治会活動の多くは実施できませんでしたが、下半期の事業については感染症と向き合いながらどのように活動していけば良いのかを考え、主にWEB会議システムZOOM

やMicrosoft TeamsなどのICTを活用して行ってきました。それにより、自治会交流会の実施が可能となり、他学年との交流を図ることができました。また、今年度は自治会主催新入生歓迎会が実施できなかったため、代替えとして一年生を対象に自治会よりプレゼントを配布し、全自治会員には補助金の配布を実施しました。

前期に引き続き後期もオンライン授業が多く、感染予防行動を徹底しながらサークル活動を円滑に行うことができるよう、自治会ではオンラインでのサークル活動を支援してきました。しかしながら、この感染症によるパンデミックは現時点においても終息の目途が未だ立っていません。新型コロナウイルス感染症により、社会は変わりつつあります。今年度ICTを活用して見えてきた課題を克服し、自治会員と共に社会の実情に合わせた活動を継続していきたいと考えます。今後も新型コロナウイルス感染症のパンデミックと向き合いながら、持続可能な自治会活動を行ってまいります。



公開講座 つばめ教室

尾張旭市で「つばめ教室」を実施しました

令和2年12月22日(火)に尾張旭市スカイワードあさひ5階くすのきホールで「つばめ教室」を実施しました。

この事業は、尾張旭市から本学が委託を受けて、地域高齢者の摂食嚥下機能を維持し、摂食嚥下障害を予防することを目的として平成28年度から実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、摂食・嚥下障害看護認定看護師によるスクリーニングテストを中止し、鎌倉学長による講義を中心に行いました。



室内の換気を行い、距離をとったうえで、感染予防、摂食嚥下機能の維持について講義は進みました。

講義の後、参加者36名全員で嚥下体操「つばめ体操」を行いました。

2021年度入学試験結果

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学独自選抜	40	228 (15)	221 (15)	101 (6)	2.2	64 (6)
大学入学共通テスト利用選抜 (前期A)	6	108 (5)	108 (5)	30 (2)	3.6	3 (0)
大学入学共通テスト利用選抜 (前期B)	6	85 (7)	85 (7)	24 (2)	3.5	3 (0)
大学入学共通テスト利用選抜 (後期)	6	13 (2)	9 (0)	1 (0)	9.0	0 (0)
高等学校長推薦選抜	30程度	42 (4)	41 (3)	36 (3)	1.1	36 (3)
赤十字特別推薦選抜	30程度	28 (1)	28 (1)	28 (1)	1.0	28 (1)
社会人特別選抜	2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)
計	120	504 (34)	492 (31)	220 (14)	2.2	134 (10)

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学院入試 (修士課程)	第1回	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	2 (1)
	第2回	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	1 (0)
大学院入試 (博士課程)	第1回	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)
	第2回	4 (1)	4 (1)	3 (0)	1.3	3 (0)

※ () 内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。

大学院入試 (博士課程) 定員は北海道・秋田・広島・九州と本学合わせて計10名。令和3年度の本学定員は2名。

令和3年度公開講座・専門職向け研修会日程

■公開講座

日時	領域	テーマ	備考
令和3年12月18日 (土) 13:00~15:00	精神看護学	第4回こころの健康づくりシンポジウム 「未来を創るArtとCareの対話」	Zoom開催
令和4年1月13日 (木) 13:00~14:30	老年看護学	知って安心、認知症のこと	

■専門職向け研修会

日時	領域	テーマ	備考
令和3年8月21日 (土) 10:00~12:00	基礎看護学	臨地実習指導のコツ	Zoom開催
令和3年11月20日 (土) 14:00~16:00	専門基礎	「ころりん」で体験する科学の原理原則	
令和4年1月22日 (土) 13:00~16:00	外部講師	医療メディエーション	
令和4年2月16日 (水) 13:00~16:00	精神看護学	ストレングスモデルの実践的展開 臨床判断力を育てるには	
令和4年3月12日 (土) 13:00~16:00	看護管理学	指導に役立つマネジメントリフレクション	

Information

Event

大学行事

4月	3日(土)	入学式	8月	20日(金)	オープンキャンパスmini
	5日(月)	前期授業開始			
5月	1日(土)	日本赤十字社創立記念日	9月	4日(土)	第1回大学院入学試験
				27日(月)	後期授業開始
6月	12日(土)	第1回大学院説明会	10月	2日(土)	オープンキャンパスmini
7月	17日(土)	オープンキャンパス			

寄付金

教育研究環境充実のための設備や教育資材等を適時、適切に整備し、学生に対して十分な教育環境と学生生活の支援を行うことを目的として、日本赤十字豊田看護大学サポーターズ募金“いとすぎ募金”を創設いたしました。是非とも“いとすぎ募金”の趣旨をご理解・ご賛同いただき、皆様からのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 活用法

- ①教育活動の充実 ②研究活動の充実 ③奨学金制度の充実 ④学生生活の支援
⑤施設整備の充実 ⑥社会連携の推進

2. 金額

- ・1口 5,000円(個人) ・1口 10,000円(法人)
※1口から10口程度お申込みいただけますと有難く存じます。

3. 税制上の優遇措置

本学への寄付金は、税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。
申込方法等の詳細は、ホームページをご確認ください。
ご寄付のお願い (<https://www.rctoyota.ac.jp/general/donation.html>)



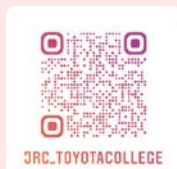
最新情報をチェック!

入試情報や最新情報を発信していきます

LINE 公式アカウント



Instagram



愛知県内の赤十字施設の共同
Instagramも開設しています
【@nisseki_aichi】



令和3年度新任教員

助 教	池田 亮	基礎看護学
-----	------	-------

令和3年度新任職員

学務課	木村 美希	総務課	中谷 瞭
-----	-------	-----	------

編集 後記

青空と木々の緑がまぶしい季節となりました。
昨年の今頃は、突然のテレワーク、オンライン授業
への切り替えに右往左往しましたが、今では皆が
ウェブ会議ツールを使いこなし、行動制限がかか
る中でも活動の幅を広げています。「やればできる」ものですね。
さて、「いとすぎの丘」Vol.33では、コロナに負けず巣立った
卒業生の晴れやかな姿をお届けすることができました。また入
学式や数々のイベントが再開された様子もご紹介しました。再開
の裏にある感染対策や様々な工夫を読み取っていただければ幸
いです。この場をお借りして、ご執筆下さった皆様に深謝申し上
げます。

いとすぎの丘 Vol.33

発行日/2021年5月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228

FAX 0565-37-8558

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <https://www.rctoyota.ac.jp/>